

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT27244 細胞から染色体までのミクロの世界を覗いてみよう！



開催日：平成27年8月29日(土)
実施機関：鳥取大学
(実施場所) 医学部生命科学科
実施代表者：久郷 裕之
(所属・職名) 鳥取大学大学院医学系研究科・教授
受講生：高校生 17名

■実施内容

当日のスケジュール【講義】-【施設見学】-【実験・実習】-【最新の染色体解析技術の紹介】

- 9:30-10:00 受付(医学部生命科学棟1階)
- 10:00-10:20 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
- 10:20-10:50 講義①「遺伝子・染色体って何?(講師:久郷裕之)」
- 10:50-11:20 施設見学(終了後10分休憩)
- 11:30-12:00 講義②「染色体を利用して何が出来る?(講師:香月康宏)」
- 12:00-13:00 昼食・休憩(大学)
- 13:00-13:45 実験①「正常細胞とがん細胞を顕微鏡でみてみよう」、細胞培養見学
- 13:45-14:30 実験②「染色体標本を作ってみよう」
- 14:30-14:40 休憩
- 14:40-16:00 実験②「染色体を見てみよう」
- 16:00-16:30 アンケート記入とディスカッション
- 16:30-17:00 修了式(未来博士号授与)
- 17:00- 終了・解散

はじめに日本学術振興会より送付していただいたひらめき☆ときめきサイエンスに関してのリーフレットを用いて科研費についての説明を実施した。

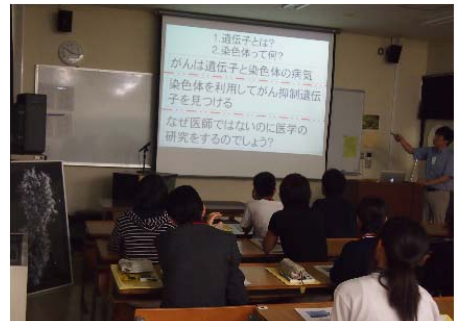
【講義】

講義①では、「遺伝子・染色体って何?(講師:久郷裕之教授)」を行い、大学の講義の雰囲気を経験しながら基本的な知識(遺伝子・染色体)を身につけてもらいました。

次の講義②では、「染色体を利用して何が出来る?(講師:香月康宏准教授)」を実施し、染色体工学を利用した最先端技術およびその利用方法を紹介した。

【施設見学】

一般生化学実験室に加えて、細胞培養室にてクリーンベンチ、恒温装置など細胞培養に必要な機器説明を実施した。さらに、染色体解析室において最新の染色体解析装置の見学を実施した。



【実験・実習】

実験①「正常細胞とがん細胞を顕微鏡で見よう」:位相差顕微鏡を用いて、フラスコあるいはシャーレに播種したヒト正常細胞およびヒトがん細胞を観察し、その違いを理解してもらった。

実験②「染色体標本を作ってみよう」:各受講者に染色体標本を作製してもらった。本実習においては、比較的染色体標本が作製しやすい、中期分裂像が多く染色体数も少ないシリアンハムスター由来の CHO 細胞を材料にもちいた。受講者には、あらかじめ固定させた CHO 細胞をパスツールピペットで取り出し、スライドガラス上に滴下させて火炎法により染色体標本を作製してもらい、自身で作製した標本を生物顕微鏡により観察させた。



実験③「染色体を見よう」:生物顕微鏡を用いて、あらかじめ準備(染色)しておいた様々な細胞(ヒト正常細胞、ヒトがん細胞、チャイニーズハムスター細胞)の染色体観察およびスケッチを実施した。



【最新の染色体解析技術の紹介】

染色体の観察中に少人数ずつ、染色体解析室においてマルチカラー蛍光 in situ ハイブリダイゼーション(mFISH)および核型解析を最新の染色体解析装置を用いて紹介した。



【修了式】

アンケート調査後、各自一人一人に修了書を手渡し終了した。



■プログラムを工夫した点

遺伝子の集合体である染色体に興味をもってもらうために、本学形態医学分野の稲賀すみれ博士に協力していただき、電子顕微鏡でとらえた染色体像の写真を展示した。加えて、核型分析をゲーム感覚で実施できるソフトを用いて参加者に体験してもらった。実習においては、染色体数や形が種によって異なることを理解してもらうためにヒト以外のサンプルを準備し、スケッチを実施した。

■事務局との協力体制

- ・研究・国際協力部研究協力課が学術振興会への連絡調整、提出書類の確認・修正等を行った。
- ・医学部 学部調達係が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。
- ・医学部 総務課広報係が大学のホームページへの募集案内を掲載、学外の広報関係者との連携を行った。

■広報活動

- ・鳥取大学ホームページにおけるプログラムの募集案内の掲載を行った(医学部・広報係)。
- ・大学と地元自治体(米子市他)の広報担当者との連携(市報、ケーブルテレビを用いた情報提供)を行った。
- ・鳥取県内の高校へのチラシの送付を行った(医学部・広報係)。

■安全配慮

- ・事前に実習補助者と一通り実習を行い、危険と考えられる操作について確認した。
- ・実習前に安全教育を行い、受講生4人に対し、1名の割合で学生アルバイトを配置して安全に留意して実習を行った。
- ・受講者は全員に白衣を着用させ、参加者全員に対して傷害保険(リクリエーション保険)に加入した。

■今後の発展性、課題

参加者に関して、広報活動(チラシの配布など)を実施していない県外(神奈川、愛知、大阪、兵庫、岡山、広島)から多数の参加があり、参加者の科学を学びたい情熱に驚くとともに、本事業の活動が全国にまたがり知られており、その発展性を強く感じた。アンケート調査結果より、実習内容に関しては十分に面白さをアピールできたと考えられる。しかし、山陰両県(鳥取県、島根県)の参加者が予想以上に少なく、この事業実施を各学校に浸透させるためにも、今後も継続させる取り組みが学校レベルの推薦で積極的に参加者を生み出すことの発展に繋がると考えられる。さらに、魅力ある事業として認識してもらうために、今後は、参加者がより実践可能な細胞培養などを取り入れ、科学の面白さを浸透させていきたい。一方、今回の参加者の集まりは必ずしも順調に進まなかった。文化祭準備や夏休み明けに実施日を設定したことが大きな原因であることが後で判明した。今後、学校に直接問い合わせて生徒が参加しやすい的確な日程設置に努めたい。

【実施分担者】

香月 康宏 大学院医学系研究科・准教授
宇野 愛海 大学院医学系研究科・助教
大平 崇人 大学院医学系研究科・助教
平塚 正治 医学部・助教

【実施協力者】 4 名

【事務担当者】

研究・国際協力部 研究協力課・事務 石井 菜津美